

# 乳房切除術と乳房再建術後に、 術後化学療法を受けた、 Bさんとお子さん (幼児期、学童期 二人)

子どもが、「ぼくのせいでおっぱいの病気になったんでしょ?」「ママの栄養取っちゃったから、だから病気になったんだよね?」って。

**看護師** 退院後親子でお風呂に入ることに、

変更はありましたか? 手術前は、自分が

お風呂に入れていたということでしたね。

**Bさん** はい。

**看護師** 今も変わらないですか?

**Bさん** うん、変わらないね。

**看護師** 退院後、親子の生活でどんな変化

がありましたか?

**Bさん** 重い物とかを持ったりすると主人がやってくれるっていうのを見てなのか、

「僕持つからいいよ」とか、「鍵開けるから

いいよ」とか、そのようなことをやってく

れる。退院直後は、手術した方の腕に力が

入らなくて、椅子持ってきて洗濯物を干し

てくれたりとかを、兄弟でやっていた。

「ぼくもやる! ぼくもやる!」って、「手

伝ってやる」と。もともとお手伝いはして

くれていたんだけど自分から、「ママおっ

ばいから、ぼくがやるよ」とか、子どもが考えてくれているのは感じました。

**看護師** 手術が終わってから、お子さんにこれやってねとか、あれやってほしいなとか言わなくても、お子さんが自然と手伝ってくれたのですね。

**Bさん** そう。自然と自分からっていうのもあって。まあ、主人と私の母親も、手伝ってくれているのを見て、子どもたちが自分たちもしなきゃって思ったみたいです。あえてこっちから、主人から、「ママ大変だから、やってあげなさい」とかの言葉をかけなくても、自分から結構茶碗を片付けるとか、洗うとかやってくれるようになりましたね。今までは、子どもはお手伝いって、正直お小遣いが欲しくてやっていたことはあった。

**看護師** お小遣いのための、お手伝いだったのですね。

**Bさん** そうそう。お手伝い一回十円の法則があるんですよ。それでいっぱいもらいたいとかってお手伝いすることあったけど。そうじゃなくて自分から、お手伝いした日はカレンダーに丸をつけて十円のお小遣い

もらえるのですけど。そういう丸を付けもしなかったの。(私は)ふーんって思って。

**看護師** お子さんがお手伝いする理由は、聞いてみたことありますか？

**Bさん** ないです。ただ自分が、「ママおっぱいがないから」っていうのは、よく何回かは聞いていたんですけど。

**看護師** どのくらい手伝ってくれましたか。期間的に。

**Bさん** 抗がん剤やっけていて、ぐだっとしていた時は、やっぱりやっけてくれます。やっってくれるっていうか、やらなきゃいけないんだなって、子どもが自分で感じるのか、私が朝起きるのが辛いし、台所立つのが辛いっていうのがあって、化学療法直後は。だから、そういう時は自分でパン焼くからって。お兄ちゃんがやっけているのを見て、弟がやっけてます。下の子は私じゃなくて、お兄ちゃんを意識しているから。お兄ちゃんに対して絶対なところがある。お兄ちゃんに負けない、お兄ちゃんの真似する。だから、お兄ちゃんがやるなら、ぼくもだっけて！ っていうね。  
**看護師** お兄ちゃんが、自発的に手伝ってくれている感じなんですか？

**Bさん** うん。

**看護師** お兄ちゃんの性格は、どんな感じですか？

**Bさん** ナイーブな感じ、性格的には。でも、今回、乳がんになったことで、子どもの前で落胆して、子どもが察しないようにした方がいいかなっていうのはあって、仕事してれば気が紛れるし、ちょっと休まないでぎりぎりまで働こうって思って。その間、自分の気持ちの整理がつくまでは、子どもに何とも言えないし、自分のコントロールができてなかったし。でも私から、子どもに「がん」って言わないで、「おっぱいの病気になったから、病院にちょっとお泊りに行くことになった」って話をしました。「おっぱいも全部なくなって、ツルンってなるんだ——」って。お風呂で言ったのかな？ 二人？ 三人の時に。子どもと入ってる時にね。子どもは、「ふーん、ふーん」って。その時は聞いていて。でも、「こっちのおっぱいあるんじゃない」とか、そんな感じで。子どもがへこんだっていうのはなくて、「そうなんだー」みたいな感じで。次男は、「じゃー！ ごほんどうすん

の？」(笑)。次男は食べるのが趣味だからね。「誰作るの？」とか言っていた。また家族で手術の話をした時に、入院しているか、その不在の時間が何日間っていうの不安になったのか、「どのくらい病院にいるの？」とか、いっぱいきかれた。カレンダーに、ここからここまでって、「その間、僕たちはどうすればいいの？ 誰といろの？」と聞かれて、子どもに、「パパとしかいれないんだよ」と話しました。その時に旦那が、「ママおっぱい取らないと、死んじゃうかもしれない」って、かぶさるように言っちゃったもんだから、子どもたちは「あー……、……」みたいなになっちゃって……。うーん……。入院する前、子どもとお風呂の時に話していて、「ママおっぱい、その、なんで病気になったの？」って話になって。退院後、一、二、三日経ってから、子どもが、「ぼくのせいでおっぱいの病気になったんでしょ？」って。なんていうかな、家族で話している時に、意外と長男って、人の顔じーっと見てしゃべってるんだよね。人の顔じーっと見て聞いているんですね。私のことだけでなく、興味のある

やつだけですけど。興味のないやつは、全くなんですけどね。ほんとにガン見して、しゃべってること聞いている。私の母親と私の会話で、乳腺炎の話をしちゃったんですね。一人目がひどくって。乳腺炎もがんの一つの原因らしいよってこととかも話をしていたんです。それを聞いてか、その時かな、長男から、「ぼくが悪いんでしょう？」って言われて。「ママの栄養取っちゃったから、だから病気になったんだよね」って言われた時は、もうそんな……！ 子ど

もって、そうなんだ、そういう風な目線でくるの？ っていう、いたたまれない感じとかありましたね。まさか、そんな言葉がくるっていうか、子どもが、私の病気を自分のせいとしてくるか！ って、はぁ……って、子どもって分かんない、すごいっていうか……。

**看護師** 子どもの理解が、Bさんの中では、想像していなかった反応だったのですね。

**Bさん** そう全然違いましたね。本当に。まさか、自分のせいに行っているっていうことが……。すぐに〇〇（長男）のせいじゃないよっていうこと言ったんですけど。

「おっぱいいっぱい飲んだから、こんなに元気に育ったのだから、そのためのおっぱいなんだからね。〇〇のせいじゃないよ、せいじゃないから」って言って、長男は、「うん、うん、うん」って言うていたんですけどね。

**看護師** その後も言ったりしていましたか？

**Bさん** それ一回きりです。落ち込んだり眠れないはなかったです。いない時の姿は分かんないけど。授業参観に主人行ってくれて。その時ちらっと、学校の先生に私が入院中だったことは話して、それで何となく先生が分かってくれて。家庭訪問で先生がうちに来た時に、私が乳がんなので話した時は、「学校の生活は、見る限りは元気です」っておっしゃっていたんです。入院中の学校の生活も、それなりに過ごしてんだなーって思ってた。子どもが落ち込んでるっていうことはなかったですね。

**看護師** 兄弟で話をする姿はありましたか？

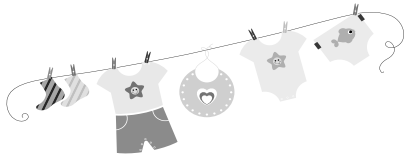
**Bさん** 二人つきりで、というのを見たことない。三人で寝る時、今も私と寝るんです。その時、私が真ん中で、左右に子どもたちなのですね。今までは私に抱きついて

ないと寝なかったのですけど。やっぱり、退院した時は手術した方の腕がきついんですよ、乗られるのが。でも、今まで入院していた分、やっぱりなんかなくて。手術と反対側はできるからするし。でも、手術した側はお兄ちゃんだしなくて、でも、「痛いからこっちな」っていうと、「うん分かったー」って。でも、近寄ってくると次男が、「離れて！ ママおっぱい痛いんだから。離れて！」って言うのと、こら辺

（前腕）で寝て。うん、子どもが私にくっつきたい時は、お腹の上に頭だけどんってのっけて寝ていたり。うん、ここだったらいいよっていうと、「ふーん」ってお腹の上で寝ていた。

**看護師** おっぱいを触ったりはしますか？

**Bさん** します。入院中にも見せたんです。見せたら、「うわー」って。手術後ドレーンが入っている時は、すごく触るのが怖かったみたいなんですけど、「触りたい」って興味本位のところがあって。最初に長男はこんな（手で顔を覆う）感じだったけど、次男はそういうところ積極的で、「はあ〜！へえ〜！」ってね。（笑）二番目ってね。



「おおっ！」とかって、「黒い（乳頭）のな  
いね」とか、「取ったんだって、どうやっ  
て取ったのだろうね？」って感じで話して  
て、「ママ寝ていたから分かんないんだよ」  
って話しました。それで「痛い？」って聞  
いてきて、「痛いよ」って話しました。私  
いろんな人に、手術した胸を見せていたん  
です。お見舞いの人にこんなふうになりま  
したよって。それを見てて自分も触ってみ  
たいっていう気になった感じで、子どもが、  
「見せて、おっぱい見せて」って。見てそ  
れで怖がることはなくて、一瞬傷を見てと  
かドレーン入っていたから見ても大丈夫か  
な〜？ っ、ためらったのかもしいない。  
退院した時には（組織拡張器に）生食も入っ

て、胸が膨らんでいたから、乳首がないだ  
けの状態だね。子どもは触って、「あー、  
むにゅむにゅする」とか、「へえ」とか  
そんな感じだね。お風呂は、全然嫌がらず  
に入ってくれています。

**看護師** お子さんが、怖がらずに受け止め  
た理由は何だと思えますか？

**Bさん** あの膨らみ（再建術）で変わりが  
ないっていうのが大きいのかなーって思い  
ます。「変わってない、変わらなないね」っ  
て、「乳首がないだけでもね」って。手  
術後の胸がまっ平らってことはなかったの  
で、微妙な感じであったから。うん、だか  
らふくらみが大きかったと思います。  
**看護師** お子さんは見た目のところで変わ  
りないから、触れたりすることができたっ  
てことですね。

**Bさん** そうですね。形成に受診するたび  
に、生食注入するじゃないですか。そうす  
ると子どもが、「今日大きくしてきたの？」、  
「注射してきたの？」どこから入れるの？」  
って聞いてくれるんです。全然怖がるって  
ことはないですね。

**看護師** 膨らませる原理が、分かっている

のですね。

**Bさん** そうみたい。大きくなっていくっ  
ていうね。

**看護師** Bさんが説明をしたのですか？

**Bさん** うん。「ここから生食をジュウッ  
て入れてね。で、元通りのおっぱいに治す  
んだよ」とかってね。そしたら次男は、  
でもこっち（手術した胸）の方が大きいじ  
ゃん！ とかって。「じゃー、こっちも大き  
くする？」とかね（笑）次男はそんな感じ  
で、あっけらかんとしている。でも、時々、  
「えー……」っていうしぐさもある。

**脱毛して、坊主になって子どもと  
写真を撮ったの（笑）。子どもがい  
るおかげで化学療法も頑張れた。**

**看護師** 「えー……」っていうのは？

**Bさん** 化学療法で、脱毛した時です。

**看護師** 副作用で脱毛した姿に？

**Bさん** うん。化学療法が始まることを、  
手術の前の日に聞いたんです。明日手術っ  
ていうより、化学療法自体にまたショック  
で。「えーっ！」って。怖いし、でもしよ

うっていう、でも、やるしかないって決めたからなって思っ、治療始めて少しづつ髪が抜け始めた時は何とも。子どもたちも気づかなかったけど、突然脱毛って、ぼわーって抜けたんですよ。お風呂入っている時に。三人で入るから、抜けた時に、「なんだなんだ!? わー」ってなった。「おっぱい治すために使ったお薬が強いから抜けるらしい、はげになるらしいよ」って、ちょうどパパも坊主なんです。だから、「パパみたくなる、坊主になるよ」って言って。えーって話をしている、「わー! 本当だ。抜ける抜ける」って感じで、次男も言っていたんです。お風呂上がって、洗面所でドライヤーして、本当にもうワサワサ抜けてきて、本当に、こんななんだったら涙出てきて、怖いのと、悲しいのと、いろんな、もう関係なしに主人の所に行っちゃって、「髪の毛抜ける、もうやだー」って泣いちゃったんです、子どもたちの前で。子どもたちもいたんですけど、会話は聞いてなくて、私が主人の前で泣いている姿を見て、「ママどうしたの?」ってなって、「パパがまた、ママのことちょっと怒ったんだ」

みたいな感じで言っ、「もう! なんてパパ怒るの?」って話をし、その時に、「髪の毛はいずれ生えてくるんだから」って、主人が言っ、「まあ、そうだなと。そこから、お風呂に入ってドライヤー使うたびに、ドライヤーの音がすると次男が走っ、「またパパに怒られるから」って言っ、「洗面台の髪の毛を全部掻き集めてゴミ箱に捨ててくれるんですね。床の髪の毛とかも全部ね。そういうのを見てなんか、「ありがとねー」って言っ、「ぼく明日もやるからね」って言っ、「必死で髪集めて、私も、「一緒に頼むね」って言いながら、髪集めたりしてね。なんかこう、またママが怒られる姿を見たくないから、さささって来るのかなって思っ、「自分から走っくる。あとは中途半端にはげらないですか、一気に抜けるよっていう中途半端な。ここだけって禿鷹ちゃんみたいな。「えー」とかっ。いっそのこと坊主にしまっかど主人と話して、主人は、「抜けるのに任せたら?」とか話してたら、次男が、「ぼく坊主になる!」って、「明日髪の毛切りに行こうママ!」って坊主

にしたんです。私は、何日かしてウィッグを買ったんですけど、その時カットしてたんですね短かめに、抜けるからって言っ。「んじゃあ坊主の姿で写真撮る?」って言ったら、「うん!」って、私と、坊主の写真撮ろうって写メったのね。(笑) だから、脱毛は、へこんだんですけど、子どもの姿を見て、なんだろう、なんだろうな、ちょいちょいそのような場面が出てくるから、へこんでもいられないなーと思っ。だから、子どもがいるおかげで化学療法も頑張っ。それに対しては、ありがたいかなと思っ。本当は、ウィッグも嫌だったんですけど、子どもたち、まあかつらが来た時は、最初、「えー、おばちゃんみたい」って。よく見ているなと思っ。「奥さ



ま〜♪」ってあるじゃないですかCM、あれを歌い始めたんです。長男が、「奥さま〜♪に電話したらママ？」って、「あれがあるじゃない、ママ！」と話して。家の中で兄弟が二人で、「奥さま〜♪ 奥さま〜♪」が流行語だね(笑)。子どもが、「あれ高いんだって、電話したらだめだよ」とか、「これだってどんだけすんだよ」、「私も、「おばちゃんくせー。おばちゃんくせー」ってね。それで、(誰かが家にくると)ピンポンって鳴って、かつらかぶってないと、「ちょっと！ ママ！ づら！ づらづら！」って(笑)感じで、「あーそうだねー」とか。あとはあの部分的なウィッグで、メッシュの帽子だけ被れば分らないっていうものもあるんですけど、うしろ布みたいなのが見えると二人で、「ちょっと！ ママ！ 待って、待って！ ここ、ここ隠して！」って教えてくれるんです。私が言わなくても、「見えてるよ！」って。この病気に聞してじゃないですけど、割と大人なのかなー、なんかこう、考えている以上に、なんか大人になってるってね。なんか、気を使うっていうか、それを笑いじゃないですけど、

というのかな、こう雰囲気明るくなるよ  
うな、ことを発してくれる。私が、かつら  
でこう、「ブーン」って、くるくる回して  
いると、「俺もやりてー！」って。「ブー  
ン」って一緒に回したり(笑)子どもと遊  
んでいました(笑)。それを黙って旦那は  
見ていました。「笑ってよ」って言ったら、  
「ああ……はあ……」と(笑)。

私子どもにも、『がん』って言うこ  
とに抵抗があるのではなくて、子  
どもが理解できるようにになったら、  
『乳がん』だって話を、いつかはし  
ようと思ってます。

看護師 お子さんは、お父さんに病気のこ  
とを聞いたりしていましたか？

Bさん ないみたいです。主人に、「私の  
ことで、子どもが何か聞いてきたことある？」  
って聞いたら、ないって言っていました。  
看護師 Bさんが、子どもに病気のことと  
か全部、治療のこととか伝えてきたのです  
ね。

Bさん はい 寝る時に、ちょいちょい言っ

たりしていました。

看護師 Bさんが、子どもに病気を伝える  
タイミングは、治療が始まると決まった時  
でしたか？ 自分の気持ちが落ち着いてか  
らでしたか？

Bさん 自分の気持ちが落ちついた時です  
ね。自分がもう、なんだろう、悶々として落  
胆して転移あるかどうか調べている時は、  
やっぱりすごいですよね、精神的に浮き沈  
みもあるし。子どもの前で泣けないから、  
職場の帰りにちょっと旦那に電話して、落  
ち着いたら帰るって言って。それで、子ど  
もの前では絶対泣かないって思っていたか  
ら。泣いちゃうと心配することは分かっ  
ているし、普段と同じような感じでは接して  
いました。この日に入院って前々から分かっ  
てて、いよいよ入院って時かな、だんだん  
と子どもに言い始めて、一回きりじゃなく  
て何回もね。

看護師 一回じゃなくて、少しずつ、少  
ずつ伝えていったのですね。

Bさん そうです。

看護師 伝えることは、旦那さんに相談は  
しましたか？

**Bさん** しないでです(笑) 自分で。我が家は、私がルールですから(笑)。だから、

**看護師** お子さんに伝えたことは、旦那さんに伝えたのですか？

いたかった。それで痛みを分かるとかではなくて、こういうお母さんなんだよっていうのを見せたいと思いましたね。

主人は、「そうしたいって言ったら、そうするんでしょ？ そうしたいって固まっているでしょ、意志は」って。主人も分かっている。だから、いちいち主人に相談することはなかったね。もう、主人の方が私よりへこんで泣いて、私のほうが泣きたいの

**Bさん** 伝えました。それで、お兄ちゃんが養取ったから母乳で栄養取ったから、自分のせいだ」って言っていたよって言ったなら、うーんって。それからお父さんからどうのってことはないんですけど、主人が自分で納得しちゃっただけだね。だから子どものことに関してには私から全部言いました。

**看護師** 見せることに、心配はありましたか？

山積みになってました、ファイルが。脱毛で私もいっぱい泣いたけど、主人は脱毛していく私の姿を見て泣いていたし。「あんたが泣くことないじゃない？」って言って、「泣きたいのは、私だけ」ってね。意外と主人も、最初メンタル的にきたみたい。でも、二人で、メンタル弱っていても仕方

**Bさん** 裸同士で、「おっぱいが無くなるよ。取って無くなるよ」って伝えました。それで、手術した後すぐにも、こうだよって直に見せました。

**Bさん** 考えなかったですね。そういうことは、一切。子どもに手術した胸を、見せたからどうなるとか、どうなるのだろうとか、入院するって話したらどうなるのだろう、とかいうことは、考えたことはないです。考えなかったですね。子どもに言わなきゃっていうことしか。うん、見せてあげなきゃっていうふうに思っていた。

ないでしょっていう気持ちもあった。「なかったものはなっちゃたんだし、もう受け入れるしかない」って言って。だから、あえてそこで、主人と相談して、じゃあ子どもにも、「いつ、こういうことを言おう」とか、「そういう風に言っていく」とかなくて、もう、私はダイジェストにはっきり隠さず、子どもにも言いました。

**看護師** お子さんに伝えるために、何か参考にしたものはありますか？

**看護師** お子さんに、お母さんがこうだよっていうことを見せたかったのですね。

でも、二人で、メンタル弱っていても仕方ないでしょっていう気持ちもあった。「なかったものはなっちゃたんだし、もう受け入れるしかない」って言って。だから、あえてそこで、主人と相談して、じゃあ子どもにも、「いつ、こういうことを言おう」とか、「そういう風に言っていく」とかなくて、もう、私はダイジェストにはっきり隠さず、子どもにも言いました。

**看護師** お子さんに、お母さんがこうだよっていうことを見せたかったのですね。

**Bさん** そう、知ってもらいたい思いでね。

でも、二人で、メンタル弱っていても仕方ないでしょっていう気持ちもあった。「なかったものはなっちゃたんだし、もう受け入れるしかない」って言って。だから、あえてそこで、主人と相談して、じゃあ子どもにも、「いつ、こういうことを言おう」とか、「そういう風に言っていく」とかなくて、もう、私はダイジェストにはっきり隠さず、子どもにも言いました。

**看護師** Bさんは病気のことは、学校には伝えていましたが、何か学校での心配があった、伝えたという感じですか？

**Bさん** そうです。今まで、共働きで朝ご飯食べさせて、夕方迎えに行って、ご飯食べさせて、お風呂入られて、寝るっていう、その繰り返しだったから、慌ただしくて。家ではこうだから、その分学校でも、あんな

でも、二人で、メンタル弱っていても仕方ないでしょっていう気持ちもあった。「なかったものはなっちゃたんだし、もう受け入れるしかない」って言って。だから、あえてそこで、主人と相談して、じゃあ子どもにも、「いつ、こういうことを言おう」とか、「そういう風に言っていく」とかなくて、もう、私はダイジェストにはっきり隠さず、子どもにも言いました。

**看護師** お子さんに、お母さんがこうだよっていうことを見せたかったのですね。

**Bさん** そうです。今まで、共働きで朝ご飯食べさせて、夕方迎えに行って、ご飯食べさせて、お風呂入られて、寝るっていう、その繰り返しだったから、慌ただしくて。家ではこうだから、その分学校でも、あんな

でも、二人で、メンタル弱っていても仕方ないでしょっていう気持ちもあった。「なかったものはなっちゃたんだし、もう受け入れるしかない」って言って。だから、あえてそこで、主人と相談して、じゃあ子どもにも、「いつ、こういうことを言おう」とか、「そういう風に言っていく」とかなくて、もう、私はダイジェストにはっきり隠さず、子どもにも言いました。

**看護師** お子さんに、お母さんがこうだよっていうことを見せたかったのですね。

**Bさん** そうです。今まで、共働きで朝ご飯食べさせて、夕方迎えに行って、ご飯食べさせて、お風呂入られて、寝るっていう、その繰り返しだったから、慌ただしくて。家ではこうだから、その分学校でも、あんな

でも、二人で、メンタル弱っていても仕方ないでしょっていう気持ちもあった。「なかったものはなっちゃたんだし、もう受け入れるしかない」って言って。だから、あえてそこで、主人と相談して、じゃあ子どもにも、「いつ、こういうことを言おう」とか、「そういう風に言っていく」とかなくて、もう、私はダイジェストにはっきり隠さず、子どもにも言いました。

**看護師** お子さんに、お母さんがこうだよっていうことを見せたかったのですね。

**Bさん** そうです。今まで、共働きで朝ご飯食べさせて、夕方迎えに行って、ご飯食べさせて、お風呂入られて、寝るっていう、その繰り返しだったから、慌ただしくて。家ではこうだから、その分学校でも、あんな

でも、二人で、メンタル弱っていても仕方ないでしょっていう気持ちもあった。「なかったものはなっちゃたんだし、もう受け入れるしかない」って言って。だから、あえてそこで、主人と相談して、じゃあ子どもにも、「いつ、こういうことを言おう」とか、「そういう風に言っていく」とかなくて、もう、私はダイジェストにはっきり隠さず、子どもにも言いました。

**看護師** お子さんに、お母さんがこうだよっていうことを見せたかったのですね。

**Bさん** そうです。今まで、共働きで朝ご飯食べさせて、夕方迎えに行って、ご飯食べさせて、お風呂入られて、寝るっていう、その繰り返しだったから、慌ただしくて。家ではこうだから、その分学校でも、あんな

でも、二人で、メンタル弱っていても仕方ないでしょっていう気持ちもあった。「なかったものはなっちゃたんだし、もう受け入れるしかない」って言って。だから、あえてそこで、主人と相談して、じゃあ子どもにも、「いつ、こういうことを言おう」とか、「そういう風に言っていく」とかなくて、もう、私はダイジェストにはっきり隠さず、子どもにも言いました。

**看護師** お子さんに、お母さんがこうだよっていうことを見せたかったのですね。

**Bさん** そうです。今まで、共働きで朝ご飯食べさせて、夕方迎えに行って、ご飯食べさせて、お風呂入られて、寝るっていう、その繰り返しだったから、慌ただしくて。家ではこうだから、その分学校でも、あんな

でも、二人で、メンタル弱っていても仕方ないでしょっていう気持ちもあった。「なかったものはなっちゃたんだし、もう受け入れるしかない」って言って。だから、あえてそこで、主人と相談して、じゃあ子どもにも、「いつ、こういうことを言おう」とか、「そういう風に言っていく」とかなくて、もう、私はダイジェストにはっきり隠さず、子どもにも言いました。

**看護師** お子さんに、お母さんがこうだよっていうことを見せたかったのですね。

**Bさん** そうです。今まで、共働きで朝ご飯食べさせて、夕方迎えに行って、ご飯食べさせて、お風呂入られて、寝るっていう、その繰り返しだったから、慌ただしくて。家ではこうだから、その分学校でも、あんな

「まり目立たない、うるさくない、普通にしている子かなっていうイメージがあったんです。でも、学校ではいっきなり落ち着きもなく、毎日先生に怒られて、「えー！」って。学校からそれを聞いて、「そんななの？」っていう、「知らなかった！」って。入院後、院繰り返しして休職して家にいて、子どもとの時間がすごい長くなった分、そういうことも知るようになったね。治療前は子どもから、「今日こうだった、あーだったよ」って、お風呂では聞いていたんですけど。手術して家について会話が増えて、だから自分も満足ですよ。家に居たら子どもに、「今日どんな話していたの？ どんな給食食べたの？ 美味しかったの？」っていうことだけだけね。家に居たら、「だれとどんな風に遊んだの？ 何で遊んだの？」とか、「先生に今日怒られたりした？」とか、内容が膨らんで。学校から子どものこと聞いて、「なんだ、こいつー？」って（笑）。学校から、「〇〇くんは、まあ、良く言えば、活気な子です」とかって。「えーっ！」で。「もっと言えば、落ち着きのない子です」みたいなね（笑）。「ええーっ！ そう

なのですか!?」って、もうびっくりして。それは、手術した後の学校の個人面談の時に、「先生にどうですか？」って聞いたたら、「同じです。変わりはないです」っていう事で、要注意人物だから〜みたいなこと言っていて（笑）「はぁ〜そうですかー」って。だから子どもに病気を伝えても、学校でもそんな感じですね。一緒に遊んでいる私も、私が病気で休んでいることを分かっているまました。「俺の母ちゃんおっぱいの病気だからさー」みたいな感じで、「だから、仕事行かないんだー」とか言っても、それで、そのお友達が何かかってことも、私のいる範囲では言っていないし。そのお友達のお母さんに、ちょっと、たまたま、この間会って話して、「何か言ってるー？」と聞いたたら、



「何も言わないよ〜」って。子どもって、率直に言うじゃないですか、「何したの？」とか。だから、そのお友達同士の中でも、どうってことないですね。だから、退院してから、学校の様子で変化は、ないみたいですね。

**看護師** Bさんの自分の周りの人で、親戚とか知り合い以外に、学校とかに自分の病気のことを言ったりすることに抵抗感はありませんか？

**Bさん** ないです。私の職場だったり、友達には話すことには抵抗がないですね。

**看護師** 知ってほしい人には、話したのですね。

**Bさん** そう。あと、連絡して遊びに来た人に、「実はこうなんだ」とか言ったりとか、言った友達とか職場の人たちが来てくれたり。これ良いらしいよとか、あれ煎じて飲んでみたらとか、これ効くグッズらしいよとかね教えてくれるんだよね。それ見て、「ママお友達いっぱいいて、いいね」とか言って、「そうなんだよー」って。長男が私の兄弟に、「おっぱいの検査した方がいいよ」って言ったりね。私は、乳がん

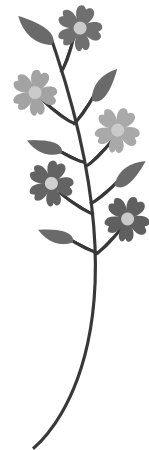


になるっていうこと考えていなくて、想像が全然全くなかったんですね。でも、実際なっちゃったから、職場の人みんな遊びに来る人に、「乳がん検診はしなさい」って言うのを、聞いているからか子どもが、「受けなよ△△ちゃん」って真似して言っていましたね。長男は大人の中にいて、会話を聞いているから。

**看護師** 退院後に、お子さんとコミュニケーションで変化があったということですが、一番それを感じたのはどんなことですか？  
**Bさん** そうですね。病気に對してどう思っているのかっていうことでは、テレビで、がんで亡くなったお母さんの話でリンクして泣いちゃったんですね、うちの長男が。それを、私がちょうど化学療法の副作用でぐだっとなっているから寝ているときでした。主人が、「赤ちゃんの時に、おかあさんが亡くなっちゃったテレビを見て、長男が泣いたんだ、リンクしたんだね」って話を聞いたの。いつもお風呂か寝ている時しか、しっかりちゃんとした会話を話せなかったから、ご飯食べてる時とかしかね。それで、お風呂の時に、「○○、泣いたん

だって？ パパに聞いたよ」って、「うーん、だって、あの赤ちゃんさー、おっぱいも飲まないのにさー、お母さんいなくなっちゃたんだよ。『がん』っていう病気、神様が持っていけばいいのにね。そしたら、『がん』はないのにな」って。「そうだね、神様は、なんで、ここに『がん』をおくんだろうね」、「ねー」って話して。だけど、私は子どもに「乳がん」のことを言っていないです。ただおっぱいの病気としか。「がん」っていう病名は言っていないですよ。だから、「ママは『がん』ではないから死なないもんね、大丈夫だもんねー」って。  
**看護師** 「乳がん」、「がん」という言葉を、お子さんに伝えなかった理由はなんですか？  
**Bさん** 子どもにとって、「がん」ということ自体の理解が難しいかなって思って。いずれは「乳がん」だっという話はしようとは思うのですが、「がん」自体の仕組みが、子どもが、まだ幼児期・学童期で、どう説明したらいいのか。「がん」っていう病気は、治るってわけではない、寛解じゃないですか。完治じゃないから、絶対治るってことではないし。それをどうやって説明

しようと思ったんです。「がん」って言うこと自体が分かりにくい、分かりづらいですよ。私が子どもに、『がん』って言うことに抵抗があるっていうのはなくて、子どもが理解をできるようにしたら、『乳がん』だっという話は、いつかはしようと思ってます。  
**看護師** 退院してから、お子さんから『がん』じゃないの？って質問はありましたか？  
**Bさん** ないですね。  
**看護師** 子どもにとって、「がん」のイメージはどんな風だと思いますか？  
**Bさん** 「がん」イコール死ですね。つながって。テレビで見て意識したとは思いません。それまでは、「がん」という病気が体が分かっていると思うんです。だから



難しいです。理解させるのに難しいですね。

まだ、「がん」は怖い病気っていうのがあるじゃないですか。それを私の口からうまく言えないかなって。「がん」は死なないけど治らない病気でもあるって言っちゃえば、「治らないのなら、死ぬんじゃないの？」って思うかなとか。そんな感じ。「がん」と言おうとしないとか、意識してはいないですけど、あえておっぱいの病気って簡単に分かるように、子どもに説明できるところを説明したという感じですね。

**看護師** お子さんのがんの知識は、テレビなどから入ってくるんですね。影響力もありますからね。

**Bさん** そう、やっぱり実際に見て感じるのは、テレビしかないからね。

**看護師** 学校では子ども向けのがん教育がないですからね。

**Bさん** やらないねー。でも、担任の先生に、「脱毛をしちゃう、今後脱毛もしちゃうんです」って話をしました。それで、「〇〇がクラスメイトから、何か言われて、あの学校行きたくないとか、ママ学校に来ないでとか言われるかなと考えます」って

先生に話したんです。先生から、「それは、その時になってみないと分かんないですけどね」って話されました。私は、「もし子どもにそう言われたとしても、体調が良ければ、がんがん学校には行きます、いくら言われても行きますね」って話して。先生は、「それは良い機会で、病気で髪の毛がなくなるっていうことは、いつかは、学習の中で取り入れていきたいです」って言うてくださいました。

**看護師** 先生も支持してくれましたね。  
**Bさん** 心強いです。

病気でもどっかで笑っている方がいい。明るく、笑いにしていたほうがきつと子どもにも、周りの友達にも良いだろうな。

**看護師** お子さんに病気を伝えることが、お子さんの発達に影響するのではないかと不安になる方もいらっしゃるんですが、**Bさん**は、どうですか？

**Bさん** そうですね。自分のせいで学校に

行きたくないとかって思われるのが一番辛いじゃないですか。〇〇が学校で何かしたとか、友達に自分のせいでいじめられた、行きたくないとかとは別に、私が理由で学校に行きたくないっていうのは、やっぱり、〇〇も辛いけど、私も辛いって思ってた。だったら、明るくして、明るくした方が笑いにした方が、きつと子どもにも周りの友達にも良いだろうなって思ってたね。

**看護師** **Bさん**から明るくしているのですね。それをお子さんが真似ているのですね。  
**Bさん** はい。だから、子どもが「友達に、ママなんで髪の毛抜けてるの？」と聞かれたら、何て言うの？とさきくから、「おっぱいの病気って言えばいいんでしょう？」とか教えて。そうなんだけど、「髪はママが自分で切ったって言っといて」と話したら、「じゃあそういう風に言っとくから」って（笑）。子どもが、友達に実際聞かれたことはないって言ってますけどね。

**看護師** 退院後に、お子さんとの遊びも変わりましたか？

**Bさん** 変わりましたね。いつも、遊びはキャッチボールや野球をしてるんですけど、

「キャッチボールはしなくていいよ」って言うんです、腕を使うからって。私も好きでキャッチボールとか、たまにやるくらいですけど、やっぱり家にいるから素振りしたりとか。子どもがグローブ持って来てやるんですね。その時に子どもが、「良いよ、投げなくていいよ、転がしていいよ」って言うんですね。

**看護師** 腕を挙げる動作が、辛いからですね。

**Bさん** そう。物干しで腕を挙げるのが辛いから、主人に頼むのも子どもは見てるから。今はもう（腕が）挙がるんですけど、ぐうーって挙げるリハビリしてて、「ママどこまで挙がる？」って言ってくれて、私が、「ここまでー」っていうと、「えらい！Bさん」って褒めてくれるの。だから、それを見ているから、キャッチボールも投げなくていいよって言うんです。

**看護師** 退院後に、お子さんから遊びの方法を変えたのですね。

**Bさん** 子どもから言うてくれるようになった、言うてくれるっていうか、言うてくれましたね。

**看護師** 手術して体が変化して、痛みがあるからお子さんが遊びを変え、寝方にして変えているのですね。Bさんがこうしてほしいと言わなくても、お子さんが痛いだろうなって考えて遊びや寝方を変えたのですね。

**Bさん** そうみたい。私がこういう風に元氣だと、たまに、がーって来てぶつかって、「うー、痛い！」って言うのと、「あ！ごめん。やっちゃったあー！」とかね。

**看護師** お風呂では、どうですか。

**Bさん** お風呂では意外と触りたがります。おっぱいに。特に傷かな。「ここどう？痛い？」どこからどこまで痛い？とか、あと傷にテープ貼っている時あるじゃないですか。それも、痒くてはがして貼り直すと一緒に手伝ってくれたんです。「おれやるー」とかって。だから興味本位なのか、やりたいのか分かんないんですけど、「おれが貼りたい、おれが貼りたい」って競っていて、ここ触ってる時に子どもが、「ここ痛いんだよね、良くなったかな？」とかね。

**看護師** 手術したところの痛みの確認みたいな？

**Bさん** それはあると思います。「どっち痛い？どこ痛い？」とか、「どこまで痛い？腕上がる？」ってね。

**看護師** お子さんも痛い具合を見ていたのですね。

**Bさん** 子どもが痛いところを、考えてくれているのかな？自信をもって運転できるのも、最近ですけど。やっぱり、手術した側が何となく感じる感じがあって、長距離運転がちょっと辛くて、そこら辺のスーパーぐらいは行けるだろうって感じで。子どもが、「ママ良かったね、運転できるね」って、たまたま長距離運転すると、「ママ大丈夫なの？」って言ってくれて。ちょいちょい、ほんとに、こっちがアピールをしてないのに、痛いとか辛いとか言っていないのに、子どもたちが自分から気付いてくれるのね。まだ、腕の感覚が麻痺っていうかしびれではない、この変な感覚、だからさすっちゃんんです。そうすると、「痛い？ここ冷たいの？」って一緒に、こうやってさすって。だからこう自分たちの中で、なんか感じた時にくれる。子どもながらに考えているって気がしますね。

**看護師** そういうお子さんの姿を見て、夫婦で話したりしますか？

**Bさん** 特にないな。

**看護師** 旦那さんは、病気のことでお子さんに与える影響を不安に思っていたことはありますか？

**Bさん** 意外と主人は、「子どもは、子どもという感じで、子どもがそう感じたら仕方ない、そのときに考える」って感じ。それを、「なっていないのに、こうだったらどうしようって考えてもしょうがない。なった時に考えようね」と。だから、子どもがこう言っていて、主人と何ということもなかったし、子どものこともどうなるんだろうなってことも感じなかったです。

**おばあちゃん（実母）の力**

「大丈夫だべ〜（でしよう）」にあたたかさと、ありがたさを感じた。

**看護師** 退院後におばあちゃんからも、サポートがあったのですか？

**Bさん** してもらいました。実家の母にど

れくらいの期間してもらったかな。家に泊まり込みで、そこから仕事に通っていました。やっぱり、子どもは、自分がしなきゃいけないと思ったようです。一緒に住んでいない、おばあちゃんに来て。おばあちゃんに来てうれいけど、「ママは具合が悪いから、痛いから、ごはん運んで」って言うのと、子どもは、「あーい」と言って、運んでくれましたね。

**看護師** おばあちゃんは、お子さんに病気を伝えることを心配していましたか？

**Bさん** 母親も意外と、強いじゃないですけど、「大丈夫だ！」ってそんな感じですよ。私最初は、母親に泣きながら言ったんです。がんになったよ、なったんだって、（母は）「あら〜……」って感じで、言っていたけど、「大丈夫だー。乳がんで生きている人、いっぱいいるから」みたいな。本当、もう、今私落ち込んでます！ みたいな感じで言っても、「ナントカちゃんだって、ほれ、何年前にしたのに、大丈夫だべ〜（でしよう）」って（笑）。

**看護師** おばあちゃんの周りで、乳がんになった方がいらっしやるのですか？

**Bさん** 何人かは知っている。でも、私の（乳がん）は種類が違うの！ いろんな種類があんの！ って、言っても、「わがanne〜（わからない）、大丈夫だべ〜（でしよう）」みたいな感じで（笑）。

**看護師** おばあちゃんは、周りで同じ病気の方がいたけど大丈夫だよって、言いたかったのですか？

**Bさん** そうです。「大丈夫、大丈夫だ」って言うけど、こっちは、本当にさー、大丈夫じゃないんだって（笑）。でも、なんかこう、がんになったことで、そりゃショックで辛いとかいうのもあるのだけど、人あったかさとか、結構大切に思われている自分のこととか、ありがたさとか感じたし。いろんなように、いろんな風に思えた。今回、（乳房）再建も当初は自費じゃないですか、七十万かかるって。再建した人に、再建した方が腕が上がりやすいって話を聞いて、わたしもよく分かんなかったから、だから、生活するには、もともと働かなきゃなんないし、だから、再建した方がいいのかなって。（最初は）全摘したら、そのままいいなって思っていたの。別に、胸は

小さいし。だけど、生活面では（再建したほうが）いいよって言うから、じゃあ、するかってなったんです。でも、前日に化学療法すると言われて。化学療法が（医療費）高いから、諦めるかってなったんです。だけど、看護師さんも相談乗ってくれて、気持ちが変わった時に、（再建するか否か）決めてもいいよって言われて、そうだな、そういうこともできるのだなって思った時に、（保険適応になり）三割負担になったじゃないですか！（運が）私ついてる！って思いましたね（笑）。やっぱり！だから、三割負担でいいんじゃないかって、がんになれてことだったのか？ってね（笑）。ちょっと、もう楽天的に考えようって。そういうのを、子どもは見えています。インプラントが保険適応になったことが、新聞に載っていたんです。それが嬉しくて泣いて。テレビでも放送されていて！やってる、やってる！って、新聞の写メを撮って。それを見て、子どもが、「それ何？」って、「これね、安いの。安くなるんだよ、良いね、東京ディズニーランド行けるかもよー」って。子どもは、「安くなるんだ！

良かったね！」って、子どもは私のいろんな場面を見てくれていますね。

**看護師** お母さんが悲しい時は、お子さんも一緒に悲しんで、楽しい時は楽しく過ごした感じですね。

**Bさん** はい。母親の胸って大きいんですね。子どもが、ばっば（おばあちゃん）の胸触るんですね。「ばっばは大きいから、おっぱいの病気にならないの？」って触りながら、「だからなんないの？ ママは、おっぱいちっちゃいのに、ばっばの子どもなのに」って言って。「人は違うの！ ママとばっばの顔も違うでしょ？」って言ったら、「ちっちゃい人がなるのかな？」ってばっばのおっぱい触りながら言ってる（笑）。

**子どもの成長していく姿を見ていきたいから、このまま、子どもと一緒に何年も生きたいという（願い）のはやっぱり、凄い活力になりますね。**

**看護師** 手術後に、お子さんとの生活は変化したのですね。

**Bさん** そうですね。でも、今は良い方は向いていると思います。家族みんなそろって、それ（私）に対して、嫌々じゃなくて、自分から進んでやってくれています。だから、この病気でこんな風になっている子どもたちは、偉いなって思います。やっぱり、中にはね、泣いちゃう子とかっているって聞いて、親としてやっぱり、なんだろうね切ないね。そうになると、傷も見せられなくなるだろうな。うちの子どもたちは、そうではなくて言うってくる子どもたちだったので、私も全然、もうオープンに、「はい」って（傷を）見せることができたし、子どもがいるから頑張んなきゃって思うし。子どもがやってくれるのを見て、しっかりしなきゃって思う。化学療法でごはんも食べたくない、トイレも行きたくない、歩きたくない、お風呂も行きたくない、「不潔子」でいいって思うんですけど、「ママお風呂入ろう」って言われると、うわー辛いって思っても動きますもんね。ああ……って思っても、（お風呂）入らなきゃなーって入るし、だから、子どもがいて押されてっていう感じなので、辛いけどやらなくちゃっ

ていう思いがありますね。

**看護師** お子さんが支えてくれたのですね。

**Bさん** 自分ひとりじゃ無理、もたないと思う。周りの人とかもいるし、子どもが小さいってというのが理由だと思う。成長していく姿を見ていきたくらいから、このまま、子どもと一緒に何年も生きたいとかってというのはやっぱり、凄い活力にはなりますね。

**看護師** お子さんが支えてくれている。

**Bさん** そうですね。次男はほんと食べることだけなんだけどね。「今日の夜ごはん、何作ってくれるの？」ってさ(笑)。

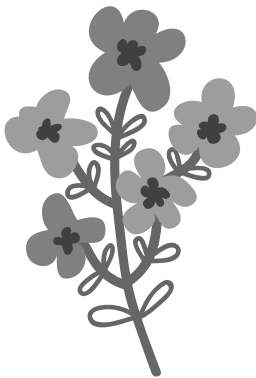
**看護師** お子さんに関連したことで、医療者から欲しかったサポートは何ですか？

**Bさん** うーん。そうですね。やっぱり、母親から子どもに病気を伝えるか、白衣を着ている姿の人から教えられるのと、どういう風を感じるんだろうな—ってのは思いました。やっぱり、子どもの病気の受け入れ。受け止め方がこう、今回は、(私が乳がんになったのは)自分のせいだって言っていて。もし、看護師さんから説明したら、それはたぶん言わないと思うんですね。看護師さんが白衣を着て、違う第三者からお

っぱいの病気はこういう病気だからって話をしてもらったら、〇〇は自分のせいにしたのかな？ とか、考えたりはする。思ったことはありますね。

**看護師** お子さんに、おっぱいの病気だよっていうのを、看護師が伝えていたら、自分を責めたり、罪悪感みたいなのを感じなかったんじゃないかなって思うんですね。

**Bさん** うん。シビアにおっぱいの病気で、簡単な病気ではないってことは、最初から言っていたんですね。化学療法をするってことは、分かんなかったから。おっぱいが全部なくなって、赤ちゃんは産めない。産めないっていうか、年も年だし、こっちのおっぱい吸うってこともできないくらい、おっぱいの母乳は出なくなるって。でも、



それって、子どもたちは男の子だから、おっきくならないけど、女の子はおっきくなくて赤ちゃんを育てる為に、それがでなくなっで、それがママは悲しいんだけど、すごい泣きたいんだよって話はして。でも、こっちがあるからね、いいねとか話して。でも、「ママはおっぱいを手術で取ることで元気にもなるし、今までと同じく働き、遊んだりもできるから、だから、その間十四回お泊りするけど、その間パパの言うこと聞いてちゃんと待っていてよ」って、「病院ちゃんと来てよ」って言って。だから、「治る病気ではないんだよ」って言った。「おっぱいは切るけど、こっちのおっぱいも切る時があるかもしれないって病気になったんだから」と話をした。それで、近寄って子どもが、「こりこりどこ？どれが病気なの？」って、それを触っていた。「これが、これが悪いことしてるからこれを取るんだけど、これだけを取れないから全部とるんだ」って話をしたね。子どもは、「これ？ これ？」って触ってくれた。「こっちにはないの？」とかって。その乳がんのしこり触ってね。母親が子ども

に説明しても、やっぱり、看護師さんって  
いう病院のスタッフ側からの説明を受けた  
時に、子どもの反応がどうだったかな？っ  
て、それで、こう自分のせいにしたかな？  
しないかな？ とか思うの。たぶん、私が  
○○のせいじゃないよって言ってそうなん  
だって言っても、自分で一回自分のせいだっ  
て思っちゃったから、どっかでは消えてい  
ないと思う。ママは自分のせいじゃないっ  
て言っても、○○の中で自分のせいだって  
思ってる。そこで、看護師さんって立場の  
医療スタッフから言われたらどうなんだろ  
う、どうなるんだろって思うのですね。  
何となく説得感ってあるじゃないですか、  
先生から言われる、先生は絶対って。受け  
入れる側もああそうなんだって思いますね。

**看護師** サポートとしては、お子さんに病  
気は自分のせいではないことをお母さんも  
伝えるけど、医療者からも伝えたら反応が  
違うかもしれないということですね。

**Bさん** そう。なんかこう、説得感の違い  
があると思いますよね。

**看護師** 自分のせいじゃないよっていうの  
も、信頼しているところから言われると、

そうかもなって思えるかもしれないですね。  
**Bさん** 自分のママが治療する病院の人に  
教えてもらうっていうのは、たぶん、子ど  
もの中でも葛藤はあると思うんですね。  
なんで、こんな説明って思うかもしれない  
ですけど。それを知ったことで、子どもの  
中でやっぱり何か変化とか受け入れとか違っ  
てくるんじゃないのかなって。

**看護師** 今回病気を上のお子さんに伝えた  
ことで、お子さんが病気を自分のせいと受  
け止めたことが、Bさんの中では後悔した  
感じですか？

**Bさん** 言ったことは、後悔はしていない  
です。ほんとに、全部さらけ出して言いた  
いので。その返答、返事に思ったことは、  
なんだろう悲しいっていうのがありましたね。  
なんか、複雑な思い。なんでそういう風に  
思うのだろうっていう。子どものせいじゃな  
いのに。だからといって、私が説明しちゃっ  
たからかなとかっていう後悔はないですけど、  
なんでそういうふうに通っちゃうんだろ？  
どうしてそう思ったの？ どういう風な、  
どうして思ったのだろう？ とか。乳腺炎  
の話したからなのかなと思ったり。

**看護師** Bさんが今回の経験の中で、一番  
つらかったところはなんですか。

**Bさん** 子どもとの関わりです。一番とす  
れば上の子のそれと、下の子が髪の毛を集  
めたり、床とかの掃除を毎日してくれたり、  
ドライヤーが聞こえたとすっとなでくる、  
排液口に溜まるのも、あれも次男が掃除し  
てくれる。見られるのイヤ、パパに怒られ  
るって。

**看護師** 下のお子さんは、髪が抜けたこと  
でパパに怒られたって思ったのですね。

**Bさん** そう。抜けて怒られたって勘違い  
しちゃって。

**看護師** 勘違いされると辛いですね。

**Bさん** そう。髪が抜けた時期は、もう感  
情のコントロールができない時期なんです  
よ。びっくりしますね。そうなんですよね。  
分かってはいても、やっぱりーっていう怖  
さがほんとにきて、ほんとに辛かった。今  
だったら全然、コロコロ(粘着クリーナー)  
持って帽子脱いで、「あ、おかえりー」っ  
て言えるけど。毛が抜けていく途中が辛かっ  
たです。なんかこう、抜けきるまでが、だ  
から、はやくウィッグも買いたいか、か

ぶりたいという気持ちがあった。なんなら帽子脱いでツルハに行くよって言ったら、子どもに、「それはやめてママ！ ツルハとつるって、ツルツルって！」（笑）あと、下の子が男の子だから、女の子の体の仕組みが分からないから、「どうなってんの？ どうなってんの？」って、お風呂で（下半身）ガン見だよね。「やめてよね！ 女子なんです！」って言って。ほんと覗き込んでくるから。気になるみたいです。「その毛も取れんの？」とか言っていた（笑）。

**看護師** お子さんとは、裸の付き合いですからね。

**Bさん** そうそう。ね。

**看護師** お風呂に入っているからこそ、そういう会話になりますね。

**Bさん** でもやめたいって思ったことはないし、隠したいって気持ちも全然持ったことないし。こうなっちゃったことを、子どもに隠そうって気持ちはなかった。私何も考えていないですね、きっと！ 私（笑）。

**看護師** Bさん家は、Bさんがルールです

からね。

**Bさん** そうそう！ やっぱ、自分が悶々とした中では上手に伝えられないし、きつと泣いちゃうだろうなって、お母さん泣いちゃいけないってところもあったしね、母は強くなきゃいけないっていうね、どっかにあるだろうから、病気でもどっかか笑ってる方がいい。

**看護師** 貴重なお話を、ありがとうございます。ありがとうございました。

— 終 —

